

# AJ

310

vol.

AQUA JOURNAL  
Nature Aquarium  
information magazine

AUGUST.2021  
100YEN

【特集】

## 自然からのヒント

【巻頭グラビア】

### NATURE IN THE GLASS

雨過ぎて蒼く

DOOA STYLE #13  
「食虫植物をオープンスタイルで。」

ADA PLANTS GALLERY #05  
「タイガーロータス」

NA PRODUCTS STORY #07  
「SUPER JET FILTER ES-600」

すみだ水族館レポート #03

ネイチャーコラム 第13回  
「とにかく生存最優先」



# NATURE IN THE GLASS

Yusuke Homma

時間がつくり上げる  
趣もまた大切な  
表現要素の一つとなる

【雨過ぎて蒼く】自然の景観は日々変化し、さまざまな表情を私たちにを見せてくれるが、偶然出会えた自然の表情や雰囲気にと感動を覚えることがある。溪流で見た石の配置や活着したコケの様子、倒れた流木の光景などはその典型でもあり、レイアウトの具体的なヒントにもなりやすい。ではなぜそうしたシーンに魅了されるのかと考えてみると、膨大な時間がつくり上げた景観だからに他ならない。時間のスケールこそ違おうが、ネイチャーアクアリウムでも長期維持によって生まれる自然感や趣があり、そんな何気ない表現も大切にしている。



©AQUA DESIGN AMANO

## DATA

撮影日 2021年6月15日(ADA)  
制作 本間 裕介(レイアウト制作・文)  
水槽 キューブガーデン W180×D60×H60(cm)  
照明 ソーラーRGB ×3(1日8時間30分点灯)  
ろ過 スーパージェットフィルターES-2400(バイオリオ)  
素材 万天石、ジャティウッド  
底床 コロラドサンド、アクアソイル-アマゾン Ver.2、  
パワーサンド・アドバンスL、バクター100、クリアスパー、トルマリンBC

CO<sub>2</sub> バレングラス・ビートル500、CO<sub>2</sub>ビートルカウンターで1秒に10滴(タワー使用)  
AIR リリィパイプP-6によるエアレーション 夜間消灯時15時間30分  
添加剤 プライティK、グリーンプライティ・ミネラル、  
グリーンプライティ・アイアン、グリーンプライティ・ニトロ  
換水 1週間に1度 1/2  
水質 水温25℃ pH:6.2 TH:20mg/L

水草 エリオカウロンsp. 'ソーシャルフェザーダスター'  
ジャイアントサジタリア  
ボルビティス・ヒュテロツティ  
マイクロソラム・トライデント  
南米ウイローモス  
プレミアムモス  
ウイローモス

*Eriocaulon* sp. 'Social Feather Duster'  
*Sagittaria graminea*  
*Bolbitis heudelotii*  
*Microsorium* sp. 'Trident'  
*Vesicularia* sp.  
*Riccardia chamedryfolia*  
*Taxiphyllum barbieri*

魚種 アフリカン・ムーンテトラ  
サイアミーズ・フライングフォックス  
オトシソックス  
ヤマトヌマエビ  
*Phenacogrammus caudomaculatus*  
*Crossocheilus oblongus*  
*Otocinclus* sp.  
*Caridina multidentata*

自然がつくり出す悠久のドラマを  
風景から感じ取る

### 三面川の源に残る自然

磐梯朝日国立公園内に位置する三面川は朝日連峰を源流とし、鮭の遡上で古くから知られている。満々と水をたたえた三面川の四季折々の美しさは別格で、その支流や周辺の原生林には野生的な景観が今も数多く残っている。ここを最初に訪れたのは約20年前、天野尚とのフィールド撮影に同行したときだ。

特に5、6年前からは毎年それぞれの季節に訪れ写真におさめている。人を寄せ付けないこの荒々しい雰囲気はまさに神域と呼ぶにふさわしい。撮影ポイントまでの道のりは険しく、あまり人の近づかないであろうこの場所だからこそ、今も美しい景観が残されていたのかもしれない。



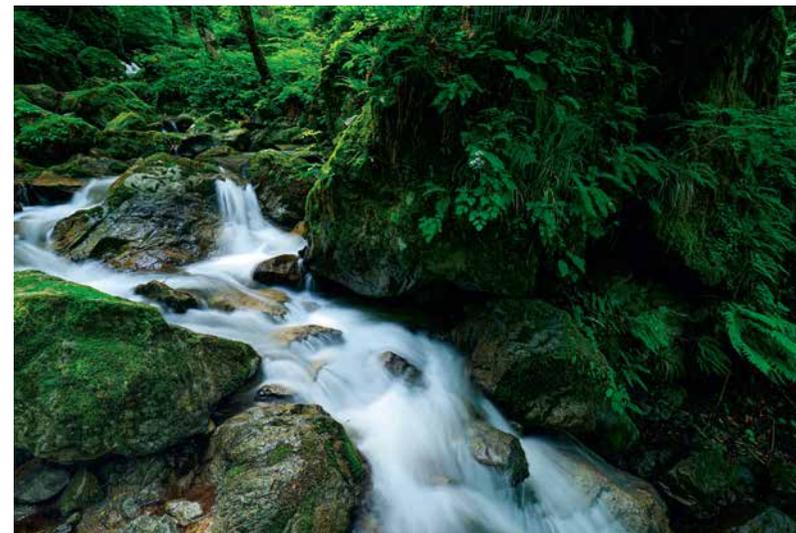
## 自然の摂理に倣う

深い森の樹木は樹高が高くなるため渓谷内に差し込む光が極端に少ない。そのためシダ類などの陰生植物が多くなっている。この雰囲気や水槽で表現しようとしたとき、シダ類をメインに使い、時間の経過を表現するために数種類のコケを使う。そして溪流の雰囲気と清涼感の演出のためにテープ状の水草を使いシンプルに仕上げる。石や流木の形や使う水草の種類など素材の魅力を最大限に活かすことを大切に思っており、自然の摂理に倣って無理な植栽や表現はしないように気をつけている。

2021年6月6日 / 撮影 本間 裕介

## 岩と水の流れの関係性

春の雪解け水や大雨によってもたらされる溪流の水の流れの力は凄まじく、人間が動かせないような石も簡単に押し流してしまう。久しぶりに行くフィールドで石の向きや川の流れが以前に比べ変化していることがほとんどである。その中でも大きな岩は形を変えず、そこに存在し続けている。日々変化する自然の中にも動かず変わらないものがあることで風景としての骨格が保たれ、美しい景色が形成されている。



## 自然から学ぶ 姿勢を忘れない

この場所には何度か足を運んでいるが、同じ風景のときは一度もない。何度も通うことで自然のさまざまな変化に気づくことができ、そのたびに新しいことを学べる。壮大な風景だけではなく溪流の石の向きやシダ植物の着生場所にも目を向けることで、自然のディテールを水景制作の際の表現の一つとして取り入れることができている。

## 本間 裕介

Yusuke Homma

ADA 水景クリエイターのリーダー。フィールドでの経験を生かし、ネイチャーアクアリウムを通して、自然の持つ魅力を伝えている。



## 耳で感じ取る

最近は写真の他にも現地でも音を収録している。他の感覚にとらわれず聴覚のみという情報だけのほうがより感覚が研ぎ澄まされ、自然のディテールまで知ることができるからだ。石の角度や水の深さで水音が変わったり、風音や虫の音の響き方でその空間の広さを感じ取れたり、収録した自然音を持ち帰って聴くのはとても楽しい。いずれイベントなどで収録した音を皆さんと共有できる機会があれば嬉しい。



## 一時の 自然の表情を表現する

ネイチャーアクアリウムギャラリーの開放的な導線を活かして、自然の中で見ることのできる光と影の部分水槽の前面と裏面の2方向から見て楽しむことのできる構成にしている。そのため素材選びも重要で、表現したいイメージにマッチした直線的な流木を選び、その構図から光の方向と水の流れを明確に感じ取れるようにした。自然風景の中で一瞬の表情と出会うように、イメージに合った流木や石などの構図素材との出会いもレイアウト制作では大切な要素となる。今回のレイアウトのヒントを得た新潟県村上市の三面川にある倒木や石の風景との出会いと、そのイメージにマッチする構図素材との出会い。それぞれの出会いがこのレイアウトの創作意欲を高めてくれたとも言えるだろう。



## 2 テープ状水草を植栽

石や流木の間隙にアマゾンア ver.2を流し入れ、ソーシャルフェザーダスターを植栽し水中感を強調した。空間部分を保つため背の低い水草をいくつか選定していたが、葉の細いエキノドルス・テネルスなどにしてしまうと1つの塊のように群生してしまい印象が薄れてしまうので、葉の大きいジャイアントサジタリアを植栽し存在感を明確にした。



自然界での石と流木との間の堆積物に植物が生育する姿をイメージしながらソイルを流し込んだ。

前面



構図

2020年6月30日 撮影

裏面



構図

2020年6月30日 撮影

## 1 直線的な流木を使用

メインとなる大きな石を軸に直線的な流木を絡むように配置。そうすることで、三角構図が活かされ、空間に向かう流れが強調される。こうした力強い構図はしっかりと間をつくることも重要である。



素材が大きいため構図の微調整には時間がかかる。

## 3 シダ類の使い分け

ボルビティスを基本に活着させているが、裏側から見た場合に明るいイメージにしたかったので、光の当たる部分にポイントでマイクロソラム・トライデントを活着させた。葉の色味によって明るい部分と暗い部分をつくりコントラストをつけている。



前面



完成

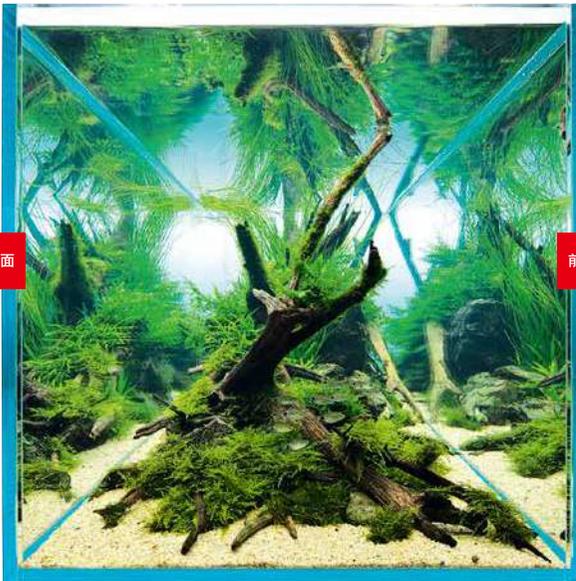
#### 時間の経過と陰の表現

ボルビティスとミクロソラムのようなシダ類をメインに植栽して渓流の植物相と長い年月の経過を表現。化粧砂部分には流木が朽ちていった木片が散らばっている様子を表現した。細かい流木は浮きやすいのであらかじめ沈むか確認しメインの流木と同じモスの種類を活着させた。



©AQUA DESIGN AMANO

裏面



前面

#### 流木の傾きで陰と陽を表現

前面は手前に傾けた流木を多くし影の多い部分をつくり迫力を出している。反対に裏側は流木が前面側に倒れていて光が多く当たるようにし、一つの水景で二つの表情を楽しめるようにしている。水景横から見るとその傾きがわかりやすい。

完成



裏面

#### 澄んだ川の水と陽の表現

ほとんどの部分を大小さまざまな石を散りばめ渓流の清涼なイメージを再現。ボルビティスの濃い緑に合うコロラドサンドを敷き渓流の礫のようにすることで、澄んだ水域を表現した。

# FIELD REPORT IN NIIGATA

「自然からのヒントを探して」

文／柴田 康文・滝沢 瑞生 写真／高遠 将史

ADAの水景クリエイターの中でも足繁く近郊のフィールドに通っている本間裕介が、新潟県村上市にある三面川の溪流に足を運んだ。このフィールドは、本間が数年間定期的に通い、時間の経過によって変化する自然の表情を追って撮影を続けているポイントである。メンバーは本間と、ネイチャークリエイション部(以下NAC)の柴田と滝沢の3名。NACとは、自然から学んだことを表現し、新たな創造力を生み出すことを目標とする部署として本間が命名したものであり、メンバーは水景の制作管理の最前線で活動をしている。今回はイベント準備に追われる中での自然観察となったが、自然の中に身を置くことでリフレッシュもできた。これもまた自然の力であり、自然から学ぶことはレイアウトのヒントだけではなさそうである。

今回訪れた三面川の溪流。深い森と大きな石に囲まれて流れる澄んだ水が、自然の力強さと繊細さを感じさせてくれた。

(撮影地／新潟県 村上市)



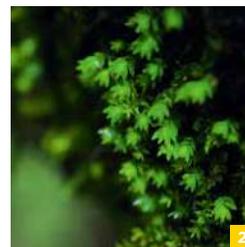
## 柴田の視点

長い時間がつくり出した石の形や配石に心惹かれました。石や流木の向きなどは、水の流れる影響を受けていることがよくわかり、レイアウト表現にも活かせそうだなと思いました。



柴田 康文 Yasufumi Shibata

リスボン海洋水族館で培った豊富な経験を活かし、現在はNACを引っ張るお兄さんの存在。休日にはキャンプやBBQを通して自然と触れ合っている。だが虫が少し苦手。



1. コタニワタリは群生せず、点在しているのが印象的だった。
2. 常に水の当たるところに多く見られたホウオウゴケの仲間。
3. 結晶のような葉が重なって生長するシノブゴケの仲間。

植物ごとの生息環境にはしっかりと違いがあり、それぞれの好む環境で健康に大きく生長している。



## 自然のしたたかさを学ぶ

無類の生き物好きが集まるNACのメンバーにとって、森や川はさまざまな生物を見て触れてその自然の多様性を学ぶ絶好のスポットだが、今回の観察地周辺の険しさは想像以上で、優しく楽しい森のイメージとは違っていた。目的の場所にたどり着くために、持参したロープを木に括り付けてそれを伝いながら急な斜面を下りなければならなかった。大自然に足を踏み入れヒントをもらうことは、言ってしまうと自然をイメージに変換して持ち帰ることになるため、それ相応の苦労が対価として必要だと痛感した。斜面は柔らかい土とガレ場が混ざり合っていて、一度足を踏み外してもすれば目的の溪流まで一瞬で転がり落ちそうなどだった。周りの景色を見る余裕もなく恐怖を感じながらゆっくりと丁寧に

ロープを固く握りしめて下った。斜面を下りきって出会った三面川上流の風景は、そんな苦労を吹き飛ばすかのようにどっしりと構え、私たちが迎えてくれた。人の手が入っていない大自然は純粋無垢の美しさで森特有の空気感を覚えた。古木は折れて流され、そこに新しい芽が吹いたり、日々動き、生と死が繰り返されている。現地では出会った植物は狭い範囲でもそれぞれの住みやすい環境に根を張って生活していて、その数が少ないからといって淘汰されることなく、その生活域をうまく住み分けて共存しているようだった。普段も水草レイアウトのヒントを探しに溪流に出掛けることがあるのだが、今回は意見交換のできるメンバーと一緒にいたため、その感動を共有できたことはとても大きかった。(柴田)



フィールドで学び、話し合うことでより深い所で自然を感じる事ができた。

## 自然の中で、語らう。

水景クリエイター  
本間 裕介 × 柴田 康文 × 滝沢 瑞生

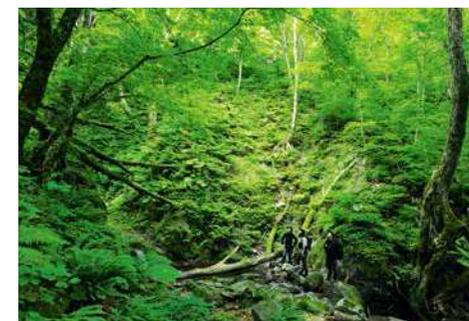
**本間** 三面川上流は自分は何度も通っているフィールドだけど、今回2人は初めてだよ。いろいろ感じたことがあると思うけどどうでした？

**柴田** そうですね、まず序盤のロープで急斜面を下っていく所から緊張感が走りました(笑)。実際に沢に下りて観察していく中で膨大な時間をかけて朽ちていった木をたくさん見ましたが、レイアウトイメージが膨らみますよね。他にはシダの生える場所やコケの種類と石への着生の様子が印象に残っています。より近くに寄って触れることで、今まで知らなかった小さな植物の世界を少し知ることができた気がします。水槽内で時間の経過を表現する際にシダ類やコケを使いますが、それを実際に目で見て観察したことでシダやコケなどを使う理由が腑に落ちたところがあります。

**滝沢** 確かに、実際にフィールドに来ないと感じられないことがたくさんありましたね。本間さんは頻繁に自然に身を置いてさまざまなことを感じながら水景を制作していると思いますが、大切なことはその具体的なレイアウト

表現だけではなく、沢に降りたときの湿気を帯びた空気や匂いなど感覚も水景の雰囲気に影響を与えるのではないのでしょうか。

**本間** そうだね、実際に見て感じるフィードバックも大切なことだね。特に今回来たこの場所はもう5〜6年くらい通っている場所なだけけど、来るたびに学ぶことがあるし新しい発見があるんだよね。常に変化している自然の風景との一期一会を大切にしたいと思っているし、それを上手く写真で記録して保存するようにしているんだ。写真を撮るときも、なぜこの岩は魅力的なのか、この倒木に迫力を感じるのか自分なりに考えて分析しているんだよ。そうしながら自分の中にインプットして表現したいなって思ったときに水景に落とし込んだりしているんだ。



自然のスケールの大きさが写真からも伝わる一枚。

## 滝沢の視点

倒木が朽ちたり、苔むす様子にイマジネーションが刺激されました。また初夏ということもあり、木々の葉は鮮やかな緑色でキラキラと輝き、森は生命感にあふれていました。



ほとんどで、成るべくしてこの風景は成り立っていることを実感した。その中でも特にカツラという木には興味を惹かれた。葉が丸く細かいため他の木々に比べて繊細な印象を与えている。また、時折差し込む日の光と渓谷をやさしく吹き抜ける風に揺られる葉は、さながら緑色のステンドグラスのように見えた。渓谷にあるカツラの木は巨木化し幹に苔が付いているものが多く、長い年月がそこにあることを見るだけで理解できる。朽ちて途中から折れた痕跡があるものも多かったが大抵折れた箇所から新しい芽が伸びており、潤沢な水分と川が運んでくる豊富な養分によってたとえ折れてもそこからまた生きようとする力強さに魅了された。実際にこのような場所に出掛けることでこんなにも沢山の気づきがあるのかと、改めて感じる事ができた。写真や言葉だけでは伝わらない大切なことを肌で感じる事ができたことは大きな収穫だった。(滝沢)

## 初めての自然体験

釣り好きの私だが溪流というフィールドに出た経験はほとんどない。なので今回の企画は楽しみな気持ちと不安に思う気持ちが半々だった。それでもできる限りの準備を行い、いざ沢に下りたとき今まで経験したことのない不思議な感覚を覚えた。下は陰生植物が覆いつくし、上を見ると高いところに木々の葉が日の光を遮っておりその2つに挟まれた空間に私は立っている。空気はとても澄んでいるのだが、湿度を含んでおり吸い込んだ空気が重く感じられる。目で、鼻で、肌でその独特なしつとりと重厚な感覚を得ることができた。木々も、溪流の岩も繊細な情報であふれているのだが、よく見ると種類や形は意外にシンプルなこと気づいた。空を覆い隠す木々はどれも大きい種類は片手で数えられるほどに少ない。トチノキ、カツラ、サワグルミ、調べてみるとどの木も水の豊富な土地を好むようだ。足元のシダやコケ類も日の光をあまり必要としない種類が

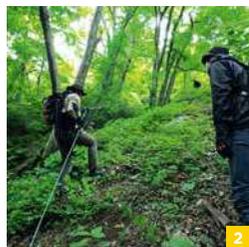


滝沢 瑞生 Mizuki Takizawa

昆虫と水生生物をこよなく愛するNAC随一のパワー系。大きな体と優しい笑顔でメンテナンス業務に励む。愛車はデリカ。



1



2



3

1. 溪流のすぐそばで見つけたオトシブミの揺籃。
2. 不安定な足場の中、ロープを頼りに懸命に登る。
3. つい生き物を探してしまう。サワガニに出会えた。

水から遠い位置にある岩の上には比較的乾燥に強いハイゴケの仲間が着生していた。



DOOA, an inspiring brand, helps you enjoy aquatic plants more freely. Minimal and easy, and designed as a platform allowing everyone to nurture plants indoors. Feel closer to nature, and bring beauty into your life.

# DOOA STYLE

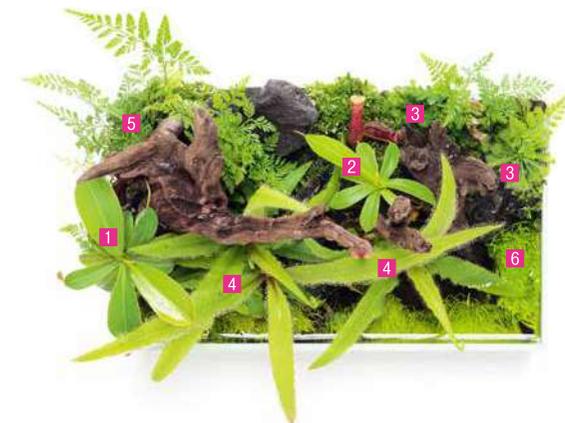
食虫植物を  
オープンスタイルで。

Text\_Kota Iwahori

#13



A. オープンレイアウトなので、虫を誘引して捕虫するシーンを間近に観察できる。  
 B. 原種の魅力的な特徴を引き継ぎつつ、育てやすい交配種が多数存在している。  
 C. 小型のドロセラ・スパチュラータは、手前のドロセラ・アデラエとの大きさの差により遠近感や解放感を生みだしている。



さまざまな捕虫形態が魅力の食虫植物は、現在では組織培養や丈夫な交配種の作出も進んでおり、DOOAグッズで楽しみたい植物グループです。この作例での育成ポイントは、低湿度に慣れさせることでした。このドロセラは、ジャングルプランツシリーズ（組織培養）を用いていますが、いきなり植栽することは避け、徐々にカップのシールフタを剥がしながら、そのまましばらくはカップで育成し、外気の湿度になれさせてから植栽しています。そうすることで、植栽直後の乾燥ダメージが軽減されるからです。また、ウツボカズラは丈夫な交配種を選び、根をミズゴケで包み、流木のくぼみに置いています。流木の裏側にテラテープで水を引き込む工夫を施しています。

DATA

- ネオガラス エア W30×D18×H12(cm)
- ジャングルベース、ジャングルソイル
- 植物
- 1 ネベンテス *ventricosa* × (*maxima* × *talangensis*)
- 2 ネベンテス *singalana* × *ventricosa*
- 3 ジャングルプランツ ドロセラ・スパチュラータ
- 4 ジャングルプランツ ドロセラ・アデラエ
- 5 ダバリアシノブ
- ツヤゴケ
- タマゴケ
- ムラサキミズゴケ
- ミスゴケ サンプル
- 6 BIOみずくさの森 ウォーターローン



※カップにシールで封をした状態で販売されています。

制作 岩堀 康太

## ロータス5000年の歴史

日本の国花は桜ですが、タイ、スリランカをはじめ、スイレンが指定されている国がいくつかあるようです。今回のテーマであるタイガーロータスは、エジプトの国花として制定されており古くから愛されています。古代エジプト文明では、パピルス(紙のような筆記媒体)や壁画にもよく描かれていたようです。また、ツタンカーメン王の墓からの出土品にはブルーロータスがでてきますが、それは別種の *N.nouchali* var. *caerulea* であると言われています。

多様な生体製品を開発している  
ADAの生産開発部、通称「グリーンラボ」。  
このコーナーではラボで扱う植物の豆知識や  
時折見せてくれる素顔の一部をご紹介します。

ADA PLANTS GALLERY

# Nymphaea lotus

タイガーロータス レッド/グリーン

Text\_Kota Iwahori

## 鮮やかに水中を飾る

タイガーロータスと呼ばれるだけあり、ワイルドに散りばめられた褐色斑が目を引きまします。派手ででありながら透明感のある水中葉は瑞々しくレイアウトを彩ります。株が充実すると浮葉を出しやすくなりますが、水中葉のまま維持するにはこまめに摘み取っていくことがコツとなります。また、あえて浮葉を展開させ、存在感をより強調することもできますが、その場合は水中への光が減ることも考慮した植栽にしましょう。



燃えるようレッドタイガーロータスが映える水景。同郷ということもあり、ボルビティスやクリナムとも馴染んでいる。

清々しい白花が輝く。オープンなレイアウトでは、目を引くポイントとなるのは間違いない。



## イツザキ? スイレン

和名はヨザキスイレンと呼ばれていますが、栽培下では必ずしも夜に咲くというわけではないようです。ちなみに、すみだ水族館の3m水槽では早朝に開花していることが多く、メンテナンススタッフの束の間の癒しにもなっています。白と黄色には、紫外線を当てると見える蛍光物質が含まれており、花が発する芳香とともに、チョウやガ、ハエ、ハチなどの昆虫を呼び寄せます。

## アフリカのスイレン代表種

赤道アフリカを中心に広く分布するタイガーロータスは、河川や湖沼などに自生しシクリッドなど魚の住処になっています。現在ではファーム内における他種との交雑の影響でしょうか、新芽が矢じり型のものでそうでないもの、斑が極端に少ないものなどさまざまな表情のものが流通しているようです。浮葉表面は光沢があり、裏面は紫色に染まり、葉脈が浮き出てきます。*N.zenkeri*は今では同種として扱われており、また、とても良く似た種類に *N.maculata* があり小型水槽に適しているサイズです。

タイガーロータスの葉裏。



# ADA NATURE AQUARIUM PRODUCTS STORY

CHAPTER  
07

## 「SUPER JET FILTER ES-600」

ADA NATURE AQUARIUMではネイチャーアクアリウムをつくるうえで必要なものが製品化されています。  
ここでは性能やデザイン性、オリジナリティが詰込まれた製品群の魅力について発信していきます。

Text Ryuji Ogawa

### 理想的ろ過システムを実現する

ネイチャーアクアリウムで使用されるフィルターに求められるのは、長期維持の過程における安定かつ強力なる過能力だ。スーパージェットフィルターES-600は充填可能容量が6L設計であり、十分なる過面積が確保できる。また高い揚程力を持ち、最大限のろ材充填時にも流量が低下しにくいポンプを採用している。高揚程力と6Lの容量があることにより、ろ材の組み合わせ自由度が高く目的に応じた最適な水質浄化のシステムを構築することができる。長期の使用期間においても素材劣化や破損、変形に強いSUS304鋼を使用した高い堅牢性を有することも特長だ。天板とキャニスター、それらを接続するパッキンやホース接続部にいたるまですべてがステンレス製であり、その素材特性から得られる絶対的な安心感は樹脂製品とは比べ物にならない。制作した美しい水景の長期維持を叶える性能を有するスーパージェットフィルターがあなたのネイチャーアクアリウムの輝きを向上させる。

スーパージェットフィルター ES-600  
対応水槽サイズ：W60×D30×H36cm～  
W90×D45×H45cm  
バイオリオG：生物的ろ過に適したガラスろ材

# SUMIDA すみだ水族館レポート AQUARIUM

Report

Vol.03

Text\_Takahito Mizuno

当時世界最大のネイチャーアクアリウムとして誕生したすみだ水族館の「自然水景」も制作から9年が経過しました。これまであまり語られることがなかった舞台の裏側を連載でお届けします。



「草原と石景」W710×D110×H120(cm) 2020年11月撮影



試行錯誤の末に完璧な草原をつくり上げた。

### 水中の草原

30年も前に天野尚が石組レイアウトで使用したことがきっかけとなり、水草レイアウトでは最もポピュラーな水草となったグロッソスティグマは、ここすみだ水族館の7メートル水槽でも主役級の活躍をしています。壮大な草原と山の風景を表現したこの水景にとって本種は正にうってつけの水草ですが、水深1メートル超の水槽における育成例はなく、その管理ノウハウはこの水景の中で磨き上げてきました。まず、陽生水草である本種を長期間維持するには生長に合わせた施肥が欠かせません。植栽範囲が広いため場所によって生長に差が生じることもあり、毎日の液体添加剤は勿論、生長が遅れがちなポイントには

ボトムプラスの追肥量を調整しています。逆に生長が速い箇所は周辺に合わせたトリミングが必要になります。その際に厚く重なるように生長した状態から深くカットしてしまうと見た目が悪だけでなく、新芽展開にも時間が掛かってしまいます。したがって毎日の展示状態をキープするためには、小まめにトリミングしながら生長の均一化を図る必要があります。このような繊細な作業を水槽の上から行うのは非常に困難で、専用ツールの開発も不可欠でした。改良を重ねた今では通常サイズの水槽と同じレベルの正確なトリミングが可能になり、現在のようにグロッソスティグマの美しい草原を実現するに至っています。

※コロナ禍につき、すみだ水族館の開館状況は公式HPなどでご確認ください。

ADA NATURE CREATION DEPARTMENT

# ネイチャー コラム

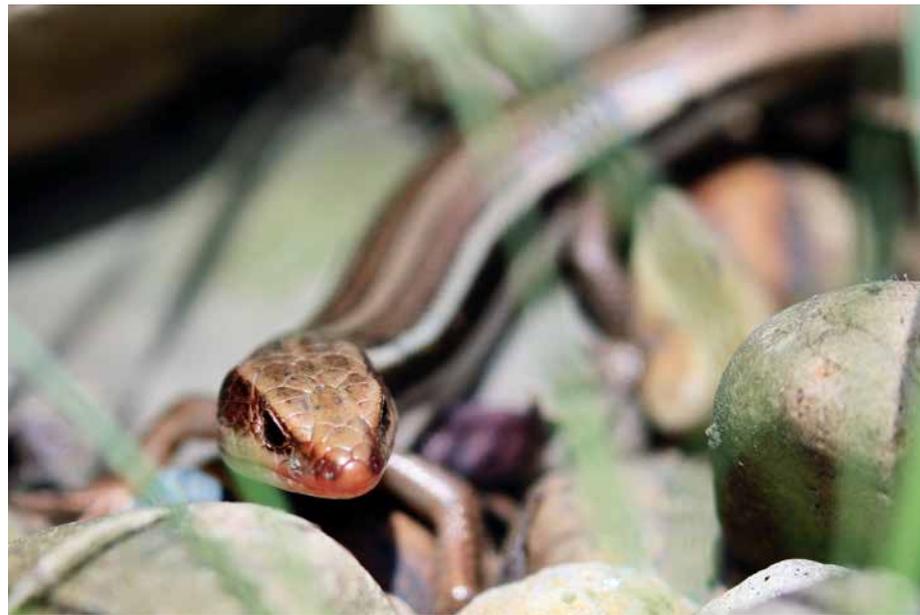
NATURE COLUMN

「とにかく生存最優先」

第 13 回

文・写真／小川 龍司

常日頃からネイチャーに身を置くライターが身近な自然をテーマに季節ごとのコラムを発信していきます。



**手** に汗を握る、そんな瞬間は誰しもが体験したことがあるでしょう。驚きや緊張といったイレギュラーな状況に置かれたとき、人はそのような反射が起きる生き物であるといわれています。今ご紹介するニホントカゲは緊急時に尾を自切することで生き延びる習性がある生き物です。実際に見たことがある方も居るでしょうし、共通認識としてトカゲはそういう習性があると知られていますよね。全長の3分の1以上を占める器官である尾を自ら切断してしまうなんて、私たちには考えられない行動です。しかし、生存競争の激しい野生の世界においては命と引き換えにこのくらいの代償を負ってもおつりがくるのかもしれない。彼らは卵から生まれて2年ほど白い黒の縦縞模様をしており、尾に特有の青い光沢があります。この幼体と呼ばれる期間にも自切は行われ、特に青い光沢部分が生存戦略上の有用性が高いと言われます。捕食者となる鳥類などが認識しやすい

色彩となっており、自切時におとるとなる尾がより目立つことで、切り逃げるため、もとい逃げ切るためにも大変重要なのです。一度きりの大作戦ではなく再び尾が伸びるため、いつの日か死に面した際に命を繋ぐためにも、尾の再生に栄養を投資しながら生きていくのです。ちなみに写真の個体は新潟県内で撮影したもので、ヒガシニホントカゲとして分類されます。川原を素早く歩き回り、石の下に潜るなど撮影がなかなかできませんでしたが、この1匹は表情がわかるような写真が撮れたのでニホントカゲではなく、ヒガシニホントカゲだと自信をもって紹介できます。実はニホントカゲにも種類があり、本州では3種に分かれているのです。目頭の間にあるウロコの並び方で判別できますが、野外観察での識別は難しいです。驚かせてしまつて尾を自切させないよう気を付けてあげたいところではありますが、そのトカゲが何トカゲなのか確認しにネイチャーへかけてみてはいかがでしょうか。

INFORMATION

## 世界水草レイアウトコンテスト2021 作品応募数歴代最多!!



応募総数  
Total Entries  
**2,617**

参加国数  
Countries & Areas  
**84**

装いも新たに開幕したIAPLC2021。皆様、たくさんのご応募ありがとうございました。歴代最多となる作品の中から選ばれるグランプリは誰の手に。結果発表は、2021年8月28日(土)にYouTube LIVEにて世界同時配信となります。お見逃しなく!

1 Japan 653	フィリピン 49	ハンガリー 17	コスタリカ 6	サウジアラビア 2
2 China 255	オーストラリア 47	ポルトガル 17	セルビア 6	シリア 2
3 Indonesia 158	イタリア 41	ロシア連邦 17	スウェーデン 5	アルジェリア 1
4 India 128	スペイン 39	デンマーク 16	ベルギー 4	アンドラ 1
5 Malaysia 126	大韓民国 37	ギリシャ 14	ドミニカ共和国 4	ボスニア・ヘルツェゴビナ 1
6 Vietnam 93	ルーマニア 36	トルコ 14	イスラエル 4	カンボジア 1
7 Germany 89	ブラジル 35	イラン・イスラム共和国 12	エクアドル 3	エストニア 1
8 U.S.A 61	中国香港 35	モーリシャス 12	エジプト 3	エチオピア 1
9 South Africa 60	スリランカ 35	オランダ 12	フィンランド 3	グアテマラ 1
10 Singapore 54	オーストラリア 34	スロバキア 12	イラク 3	カザフスタン 1
	フランス 34	カタール 12	ヨルダン 3	ルクセンブルク 1
	イギリス 33	ブルガリア 11	リトアニア 3	モンゴル 1
	ポーランド 32	コロンビア 9	マケドニア 3	モロッコ 1
	中華台北 30	ウクライナ 9	モルディブ 3	モザンビーク 1
	バングラデシュ 28	アラブ首長国連邦 8	パキスタン 3	ノルウェー 1
	タイ 27	中国マカオ 7	ペラルーシ 2	ペルー 1
	メキシコ 25	スイス 7	クロアチア 2	ベネズエラ 1
	チェコ共和国 23	ウルネイ・ダルサラーム 6	アイルランド 2	
	カナダ 19	チリ 6	ラトビア 2	

※最新情報は公式ホームページでご確認ください。



### 4つのADA関連イベント

- 1 長谷圭祐著『バルダリウムハンドブック』発売イベント  
[URBAN JUNGLE-HOME PALUDARIUMS]  
会場：大阪「graf」  
期間：7月6日(火)～7月24日(土)
  - 2 ADAは食虫植物を使ったバルダリウムの展示協力を行っています。  
特別展「植物 地球を支える仲間たち」  
会場：国立科学博物館(東京・上野公園)  
期間：2021年7月10日(土)～9月20日(月・祝)
  - 3 [NATURE AQUARIUM EXHIBITION 2021]  
会場：東京ギャラリーアーモ  
期間：9月17日(金)～11月14日(日)
  - 4 京都北山アート&ボタニカルフェスティバル  
[KYOTO ENDEMICA]  
会場：京都府立植物園  
期間：9月25日(土)26日(日)
- ※①、②はADAの常駐スタッフはおりません。  
※社会状況によりイベント内容・日程などに変更の場合があります。

#### STAFF CREDIT

Publisher 天野しのぶ  
Art Direction NATURE AD DESIGN  
Design 丸山 悟司 / 市川 亮 / 高遠 将史 / 板橋 広夢  
Editor 杉本 俊輔 / 岩堀 康太 / 水野 貴仁 / 柴田 康文 / 小川 龍司 / 滝沢 瑞生  
総監修・大岩 剛 / 写真監修・阿部 正敬

Published by  
株式会社 アクアデザインアノ  
https://www.adana.co.jp

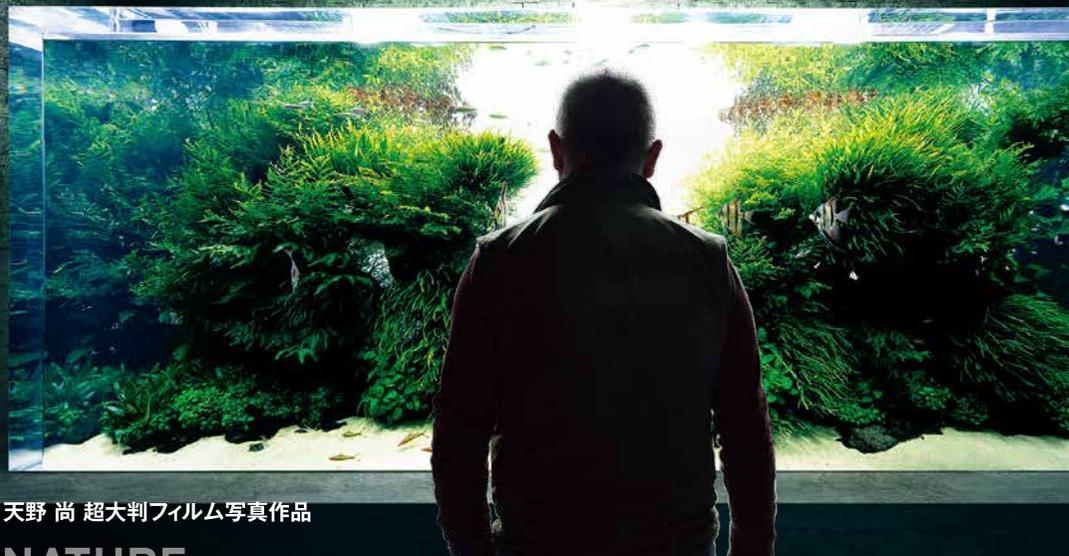
Printed by  
株式会社山田写真製版所

NEXT AQUA JOURNAL

SEPTEMBER.2021 vol.311 / 2021年8月10日(火)発売予定

アクアジャーナルの情報は一部、ADAホームページで公開しています。

ネイチャーアクアリウムの奇跡。  
自然の創造に挑む、天野尚と5人の水景クリエイター



天野 尚 超大判フィルム写真作品

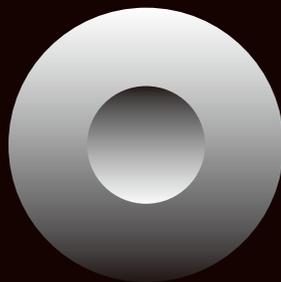
NATURE

圧巻のネイチャーアクアリウム

AQUARIUM

360°から体感する熱帯雨林、  
ネイチャータワー本邦初公開

NATURE TOWER  
360°



NATURE AQUARIUM  
EXHIBITION 2021  
TOKYO

9.17 FRI - 11.14 SUN  
Tokyo Dome City / Gallery AaMo

会場 | 東京ドームシティ Gallery AaMo

東京都文京区後楽1-3-61 東京ドームシティクリスタルアベニュー沿い

開館時間 | 平日 12:00-19:00、土日祝 11:00-19:00

※入館は閉館の30分前まで

アクセス | JR「水道橋駅」東口/都営地下鉄三田線「水道橋駅」A3出口  
東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園駅」2番出口/都営地下鉄大江戸線「春日駅」A1出口

主催 | 株式会社東京ドーム / 株式会社ドリームスタジオ

制作協力 | 株式会社アクアデザインアmano (ADA)

お問い合わせ | 東京ドームシティ わくわくダイヤル TEL03-5800-9999

(受付時間 | 平日・土日・祝日ともに 10:00~17:00)

<https://www.tokyo-dome.co.jp/aamo/event/nae2021tokyo.html>

撮影場所 / すみだ水族館 自然水景

©2021 AQUA DESIGN AMANO CO.,LTD.

